

業務効率化のためDX化推進

福山能開短大と連携しITスキル強化してデジタル人材育成に注力

大型・普通車トラックによる都市間の中長距離輸送をメインとする運送会社グループ（9法人）の西部運輸（福山市箕沖町105-17、横山立社長、電084・954・6540）はこのほど、福山職業能力開発短期大学校（同市北本庄）と連携して社内のDX化を推進。物流現場での業務効率の向上を図り、従業員のITスキル強化やデジタル人材の育成に注力していく。



写真左から、指導した鳥谷部 太教授と学生3人、表部長、重松恒暢課長



トラックドライバーの時間外労働時間の上限が年間960時間に制限されるなどの「働き方改革関連法」にわたる2024年問題によって、物流業界はドライバー不足の解消や業務効率化が喫緊の課題となった。同グループでは同課題に対応するため、23年に総務人事部の表昌昭部長をリーダーに「業務改善チーム」を立ち上げ、業務の見える化や自動化などのDX推進をはかっている。

最初に取り組んだのが、配送スケジュールの管理や入力に関する効率化だったという。同社では従来、受注先や配送先、車番や

ドライバー名などを、いったん事務所で表計算ソフトに入力した後、あらためて基幹システムへ入力しなければならなかった。そこで、業務アプリ「キントン」を導入してチーム内でカスタマイズし、配車事務などを一括管理できるようにした。これにより、作業や確認時間の大幅な短縮化ができ、業務改善が進んだという。さらに、PythonやJavaScriptを活用した高度な仕組みづくりを行うため、福山能開短期大学校への協力を要請した。写真下は学生とチームとが話し合いをしているところ。

現在は、全国55店舗内の備品などの在庫状況の見える化や、事故情報なども情報共有し、迅速に対処ができるようにし、各社員の労働時間の管理などについても残業時間や拘束時間の上限を超えないよう見える化する工夫などに取り組んでいる。

表部長は「社内では長年の習慣からバイアスがかかることもあるが、若い学生達の視点は新鮮で、大いに

勉強になります。最新技術による効率化が実現していくのは大変心強い」と話している。

備南地域の仲間たちを知ろう ⑤2

尾道しまなみ商工会青年部

永井英夫さん

自然栽培のレモンで活性化寄与



国産レモン発祥の地である生口島で、自然栽培（農薬・肥料不使用）のレモン農家（れもんだにのうえん、

尾道市瀬戸田町垂水1739-1、電090・1686・9428）を営む永井英夫さん（40）の写真Ⅱは、昨年8月にキッチンカーを導入。また、尾道しまなみ商工会青年部（丹賀淳治部長）の副部長（瀬戸田地域委員長）としても活動している。

「れもんだにのうえん」は50年ほど前からスタートし、自然栽培に取り組んできた。2500㎡で約500本のレモンの木を管理し、年間約10tを収穫する。英夫さんは大阪で旅行代理店に勤めていたが、8年前に帰郷し、後に農園を承継した。主に都市部のホテルやこだわりの飲食店などへ出荷しているが、地元の安心安全な食材とコラボした美味しい食を提供したいと、同商工会を通して小規模事業者持続化補助金を活用し、キッチンカーを導入した。

「レモン農家の小さ